〔研究報告〕

民俗芸能の伝承支援
―平内町における伝承用教材の制作―

下　田　雄　次*

報告者は2016年度より現在（2020年度）まで、約５年間、青森県東津軽郡平内町において民俗芸能の伝承を支援するための伝承用教材の制作を行ってきた。

具体的には囃子方の楽器の演奏方法や囃子（曲）の記録撮影、あるいは五線譜や運指表などの制作、そして舞踊における身体技法の記録撮影といった作業を中心に行っている。

映像記録については、主要な視聴者として民俗芸能の後継者や経験者を想定しながら制作を行っている。内容としては、完成された上演の姿だけでなく、そこに至る過程である練習会での指導の様子なども盛り込んだ内容になっている。

このような取り組みを平内町において開始したのは、2016年に行った藤沢地区での獅子舞囃子の講習会が発端になっており、その後、平内町より依頼を受けて2017年度より、現地の民俗芸能を対象にした伝承用の教材制作にとりかかった。これまで調査・教材制作を行った芸能団体は以下の通りである。

2016年度　藤沢獅子舞保存会
　　（獅子舞囃子の笛を中心に、一部の囃子のみ図表を作成。）
2017年度　内童子獅子舞保存会　　松野木剣舞踊り保存会
2018年度　浅所権現舞保存会
2019年度　外童子駒踊り保存会
2020年度　山口権現舞保存会（現在進行中）

2016年度の藤沢獅子舞保存会では、その後、団体からの要請を受けて報告者（下田）が囃子方（笛）に参加している。藤沢獅子舞保存会では、唯一の伝承者であるＯ氏が高齢による体力低下のため演奏が困難になっており、CD音源に合わせて獅子を舞うという状態が続いていた。報告者が囃子方に参加したことにより、藤沢獅子舞では、生演奏の囃子による獅子舞演舞が数年ぶりに実現した（「新年を祝う会　2017年、2018年、2019年」、「平内町伝統芸能発表会　2017年、2019年」）。

制作したビデオDVDの一部。左から、松野木剣舞踊り（2018年制作）、内童子獅子舞（2018年制作）、浅所権現舞（2019年制作）。

2017年度の内童子獅子舞保存会では、夏季に村回り行事が行われたため、地域内に多くの人々が集まり、

*弘前大学大学院地域社会研究科　客員研究員　博士（学術）
E-mail: yuji.s.jpn@gmail.com

獅子舞の演者らと交流を深める様子を映像に記録することができた。民俗芸能の記録作業においては、芸そのものの記録だけでなく、芸能が地域でどのように実践され、地域住民にどのように受け入れられているかという点についても触れておくことの重要性を再確認した場面であった。

2018年度の浅所権現舞保存会では、すでに休止状態であった保存会に対し、県外からUターンをした地元出身の女性が、権現舞の経験者らを説得し、本事業による記録撮影のための協力者を募るという経緯があった。当初は理解が得られず、計画が進まない事態も発生したものの、実際の記録作業の場では、伝承者たちが各自のこだわりを熱心に語り実演する場面が多々見られた。保存会浅所地区では、これを機に有志が集まり、権現舞活動再開の見通しが立ちつつある。

2019年度の外童子駒踊り保存会では、かつて演奏されていた笛の曲を一部復元し、奏法を記録した。報告者は、団体より要請を受けて、2020年の平内町伝統芸能発表会にて、会員の奏でる太鼓とともにこれを披露した。

従来、民俗芸能を対象にした調査や記録などの事業では、外部者が伝承者の立場にまで立ち入ることは稀であった。報告者は、自身も津軽地方において芸能者としての経験を有する立場から何ができるかを常に考え、今後も芸能の伝承者と問題を積極的に共有しながら、地域の民俗芸能の支援・研究活動を継続してゆく所存である。